

# TIC NEWS

vol. **78**  
2006.1

(財)とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F(タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail: [tic@tic-toyama.or.jp](mailto:tic@tic-toyama.or.jp)

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



“逆さ地図” 環日本海諸国図は平成6年、富山県が建設省（現国土交通省）国土地理院の承認を得て作成したものです。（承認番号平6総使、第76号）

## “日本海学” のススメ

“地球という球体において、日本海という海を中心につながっている環日本海地域。そういう位置を常に意識し、地球に危機をもたらしている人間の営みにまつわる様々な問題を自分自身の問題としてとらえ直し、我々自身の取り組みによって21世紀を切り開いていく”ことを「日本海学」は目指しています。環日本海地域及び日本海に関する総合学である「日本海学」を推進するために、平成15年2月10日、日本海学推進機構が設立され、以来、環日本海地域の問題を考えるシンポジウム、講座、調査研究委託、研究グループの支援など、多様な活動を展開してきました。

# 国際協力県民シンポジウム

平成17年10月22日に開催した国際協力県民シンポジウム。  
平成17年度とやま国際草の根賞表彰式、富山県知事表彰（国際交流  
功労）を行い、平野次郎氏を迎えての基調講演も行いました。



## 第10回とやま国際草の根交流賞受賞者の皆さま

### 朝倉 吉彦 さん

1966年、国際生活体験協会高岡委員会設立当初より参画し、委員長とし貢献。ホームステイ高校生の引率など異文化交流に尽力。

### 津田 朋二 さん

オイスカ富山県支部副会長としてネパール、中国、東南アジアの国々の子供達や地域住民との植林活動や国際親善交流に尽力。

### 岡田 浩子 さん

和田朝子舞踊研究所母の会会長をつとめ、海外公演の裏方として活躍。とやま世界こども演劇祭支援協議会会員としてもボランティア活動に尽力。

### 永原 龍峻 さん

1994年、高岡鳩の会結成以来、中国語講座などの開催に尽力し、高岡・錦州市民日本語弁論大会や日本対中国歌合戦の開催など国際親善に貢献。

### 小堀 正夫 さん

1955年、氷見市国際交流協会設立に尽力。1996年以来、会長として協会活動を行うとともに、外国人研修生受入事業の推進などに貢献。

### 松下 美規 さん

1990年のドイツ・リンゲン第1回世界こども演劇祭に参加以来、数々の演劇祭に参加し、富山で開催された3回の国際こども演劇祭でも事務局長として貢献。

### 高瀬 克司 さん

1999年から富山県日中友好協会青年委員長として参画。語学力と中国での生活体験を活かし、県内在住の中国青年との交流を通じ、日中両国の友好親善に貢献。

### コラーレ・キーボードオーケストラ

キーボードだけのオーケストラとして、黒部市の姉妹都市の米・メーコン市や蘭・スネーク市などで海外コンサートを行うなど国際親善に大きく貢献。

## 富山県知事表彰(国際交流功労)受賞者の皆さま

### 清水 猛 さん

1992年からフィリピン・カデモス諸島で現地医師の協力を得て医療活動を実施。1993年よりRCCFシミズ奨学金を創設し、フィリピン出身者の大学進学を援助。

### 古田 俊光 さん

1985年よりほぼ毎年パラオ共和国を訪問し、日本語指導活動を続け、氷見市内の小学生とパラオの小学生との交流活動にも貢献。



基調講演 平野次郎氏

放送ジャーナリスト（元NHK解説委員）、学習院女子大学特別専任教授 平野次郎氏を迎えておこなった基調講演。“21世紀の国際交流”と題し、豊富な海外経験をもとにこれからの国際交流のあり方について語って頂きました。もはや一国では解決できなくなっている環境問題などを例に挙げ、グローバルな視点からみた今後の国際交流に示唆を与える有意義な講演となりました。

## 日本語ボランティア“じっせん”勉強

今年度、当センターでは、(財)自治体国際化協会の助成を受け、県内で日本語ボランティアとして活動をしている方を対象に勉強会を開催しました。個別に日本語支援活動をしていると陥りがちな問題を、同じ活動をする仲間と話し合いながら解決していこうという目的で始まったのがこの勉強会です。“自分の教え方が不安だ”、“次第に学習者が減っていく”、“レベルの違う学習者をどう一緒に教えていけばよいか”など様々な問題を抱えて集まった皆さん。環日本海交流会館において7月から1月まで毎月1回程度で勉強会を開催し、うち2回は日本語ボランティア活動の先進県である愛知県から講師を招いて特別に勉強会を行いました。

TICはこの勉強会が日本語支援における問題解決の何らかのきっかけになればと考えています。

～以下は勉強会で指摘された貴重な視点、意見の一部です～

## 年少者教育問題の現状と展望

10月16日

講師：松本 一子氏（愛知淑徳大学・愛知県立大学非常勤講師、NPO法人子どもの国理事）



ワークショップ：異文化理解はいかに困難かを身をもって体験

- 富山県と愛知県の外国人児童は①南米出身者が多い、②就学児童予備軍が多い、③帰国時期が不確かといった、共通点がある。
- 外国人児童の滞在状況は新規来日、再来日、日本生まれ、長期滞在など多様化している。
- 来日時の年齢と日本語習得の関係は重要で、4～8歳の言語形成期に、母語の基礎づくりがしっかりできないと、母語を忘れて日本語しかわからない、あるいは、母語でも日本語でも読み書きが不十分という状態になりやすい。日本語しか話せない子どもと、日本語が話せない親とのコミュニケーションが成り立たない状況も生まれる。
- 「日常会話ができる子」にも注意が必要である。生活言語は1～2年で不自由しなくなるが、授業内容が理解できる学習言語は身に付いていないことが多い。
- 子どもたちがまた来たいと思える居場所づくり、笑顔で迎える場所づくりが必要。

## 新しい地域日本語支援を見据えて

11月20日

講師：米勢 治子氏（東海日本語ネットワーク副代表、愛知県立大学非常勤講師）

- 外国人登録者数平成16年末の人口比は愛知2.50%、富山1.16%であるが、前年比増減率は両県7.5%でほぼ同じ。
- 教授型（学校型）活動と交流型・相互学習型（地域型）活動の2つの地域日本語教育のあり方について説明。「教授方」では、教授法を習得した者がテキストを使って教えることを前提としている。何を教えるかが明確で、テキストは既習項目を前提としており、教授者が活動の主導権を握っている。「交流型」では、相手を知る（理解しようとする）・自己を語る（伝えようとする）態度を前提としている。学習する中身は参加者によって流動的である。
- “日本語を教える＝日本語教師”ではない。“伝える”ことから始めよう。



ワークショップ 日本語支援を見つめ直そう

## 日本海学推進機構ではこんなことやってます！

### 日本海学講座

5月28日	天気図から読み解く気候	富山地方気象台防災業務課長 山田 年秋
7月23日	日本海の魚たち	魚津市教育委員会文化係長 学芸員 稲村 修
8月27日	富山はいかに海を越えて紹介されたか？	富山国際大学教授 高成 玲子
10月29日	古墳からみる日本海の王者	富山大学助教授 高橋 浩二
2月4日	地域の水を生かす取り組み	富山県立大学助教授 瀧本 裕士

参加者  
募集中！

### 日本海学シンポジウム2005

11月26日 タワー111 スカイホール

基調講演 “富山から見つめる海洋保全”

NOWPAP地域調整官 アレクサンダー・トゥカーリン

パネルディスカッション “日本海を介した人びとの共存共栄”

コーディネーター	北海道大学名誉教授	小泉 格
パネリスト	北海道大学特任教授	石 弘之
	東京大学海洋研究所教授	植松 光夫
	氷見市立博物館館長補佐	小境 卓治
	富山大学理学部教授	竹内 章

### 大学講座推進事業

富山大学総合科目特殊講義「日本海学」

富山県大学連携協議会公開講座「日本海学」

早稲田大学オープンカレッジ「日本海学」

東京大学大学院人文社会系研究科

「日本海学の構築をめざして」

### 日本海学高等学校出前講座

4月15日	伏木高校国際学科	富山県国際交流員
6月8日	入善高校自然科学コース	東京大学大学院助教授 徳永 朋祥
7月20日	氷見高校自然科学コース	北海道大学名誉教授 小泉 格

### 日本海学連携事業

総合地球環境学研究所 第1回地域セミナー

“雪と人：暮らしをささえる日本海” 基調報告、パネルディスカッション

総合地球環境学研究所教授	早坂 忠裕
富山大学助教授	張 勁
富山県立上市高等学校教諭	佐藤 卓
総合地球環境学研究所助教授	内山 純蔵
富山大学助教授	中井 精一
総合地球環境学研究所教授	佐藤 洋一郎 (コーディネーター)

日本海学に関するお問い合わせはこちらへ…

#### 日本海学推進機構

富山市新総曲輪1-7 富山県国際・日本海政策課分室内

TEL 076-444-8650 FAX 076-444-8694

E-mail adm@nihonkaigaku.org URL <http://www.nihonkaigaku.org/>

#### 富山県国際・日本海政策課日本海学班

富山市新総曲輪1-7 富山県国際・日本海政策課

TEL 076-444-3339 FAX 076-432-5648

E-mail kokusainihonkai4@pref.toyama.lg.jp



## 日本海でつなが

日ごろ見慣れている地図を逆さまにすると、  
諸国が日本海という巨大な湖をはさまれているの  
んか？この視覚的イメージから生まれる  
です。環境問題は今では地球規模の問題  
になっています。また今後の相互  
の協力は欠かせないものになって

### ～平成17年度日本海学研究グループ

日本海学推進機構は日本海学を研究する

団体名		
日本海北前ロマン回廊構想実行委員会		「とやま」
氷見古墳フォーラム実行委員会		氷見古墳
和船建造技術を後世に伝える会		和船と
渡辺 幸一		越境大 境へ
特定非営利活動法人 環・日本海		環・日
板木 拓也		完新世 層水
佐藤 卓		日本海
環日本海地域小学校授業研究会		環日本 した
中世岩瀬湊調査研究グループ		海中



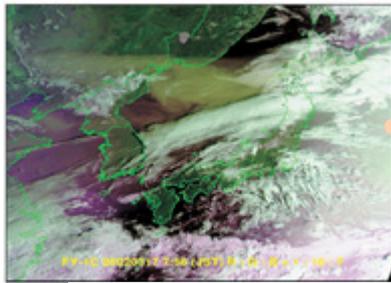
11月に開催された日本海学シンポジウム

# これが日本海学の コンセプト

日本海学は富山県の特徴にもある「循環」、「共生」、「日本海」の三つの視点に基づき、①環日本海自然環境、②環日本海交流、③環日本海文化、④環日本海の危機と共生、という相互に関連する四つの研究対象分野で構成されています。



る！  
まにしてみると、日本と環日本海  
はさんだ輪になって見えてきませ  
生まれたのが“日本海学”の発想  
で解決しなければならない課題  
互発展においても環日本海諸国間  
ています。



大陸から飛来する黄砂  
もはや国内だけでは  
解決できなくなっている  
環境問題

グループ支援事業助成団体一覧～  
研究するグループ等を応援します！

事業名
「まの北前船」普及啓発事業
古墳フォーラム開催事業
とその建造技術保存・研究事業
大気汚染や地殻起源物質が北陸地方の大気環境に与える影響の評価
日本海国際フォーラム開催事業
過去1万年2千年間における日本海の深層循環の変動に関する研究
海側地域における温度環境と植物の適応
日本海地域（四力国）の小学校授業研究会を通じた共生社会の模索
から中世岩瀬湊を探る

## “日本海学”を読もう!

日本海学の世紀第1～5集 (角川書店 各1,300円)  
 ジュニア版日本海読本 “日本海から人類の未来へ”  
 (角川書店 1,300円)

日本海学の絵本 “うみをわたったこぶた”  
 (岩崎書店 1,300円)

日本海学叢書 1～11  
 (富山県 220円)

環日本海諸国図 (逆さ地図)  
 (富山県 260円)

一般書店、富山県刊行物センター（富山県民会館内）で販売しています。  
 (叢書、地図は刊行物センターのみで販売)

# 国際協力フォーラム in TOYAMA

## ～世界の食を考える～

国際協力機構（JICA）から海外に派遣された専門家らのOB会主催で毎年北陸3県で実施されている「国際協力フォーラム」。今年は富山県の専門家OB会が主催、（財）とやま国際センター、富山県などが後援し、11月19日（土）にインテックビル2階の会議室で開催されました。

今年のテーマは「世界の食を考える」。飽食状態にある日本の食の現状と、飢餓状態にあるアフリカの現状を対比させながら、21世紀に我々が目指すべき社会のあり方について意見交換が行われました。

基調講演では、富山短期大学 桑森教授が「日本の食の現状と問題点」についてお話をされたほか、青年海外協力隊の栄養士隊員として、アフリカのブルキナファソに2年間派遣されていた井上奈緒さんが「ブルキナファソにおける食の現状」について事例報告を行いました。その後のパネルディスカッションでは、農業、林業、水、衛生の各専門家らが食をめぐる世界の現状と問題点について意見交換を行い、参加者からは「食の問題点を改善するには、まず我々の生活スタイルや意識を変えることが必要だと気がついた」といった感想が聞かれました。



今回はドミニカ共和国から届いたシニアボランティア 中嶋 貴さんからのお便りをご紹介します。



中嶋 貴さん

派遣国：ドミニカ共和国

職種：農業一般

派遣期間：平成16年10月～18年10月

首都サントドミンゴの北方120km、ラベガ市にある国の試験場（農牧林業研究所）でジュカ、甘藷等の有機栽培、新しく導入を試みる野菜（アスパラガス、枝豆、小カブ等）や土壌改良・線虫抑制を目的とした緑肥作物の栽培試験を指導しています。

赤道の少し北に位置する熱帯では、農作物の種類・栽培方式はもちろん、研究員の気質・試験の進め方等が異なるので、赴任して一年経った今でも戸惑うことが多くあります。

当国の農家は、一部の地主（数10haの農地所有）と、多数を占める小作に大きく分けられます。小作は、地主の農地で働いたり、町へ出て働いたりして現金収入を得ています。貧富の差は大きく、農地改革前の日本はこの様ではなかったかと思われます。農家では、男は農作業または出稼ぎ、女は育児、炊事・洗濯と言うように仕事の分担がかなりはっきりしています。都市部では、共稼ぎの割合が多くなるようですが、女性の働き場が少なく、傾向としては農村と

あまり変わらないようです。

カリブ海沿岸諸国は、総じて貧しいのですが、国民性は楽天的で、子どくさんで、音楽好き・踊り好きで、貯金は不得意なようです。ドミニカ共和国は、常夏の国、リゾートの国です。日本の裏側にある遠い国ですが、機会があったら是非訪問して下さい。

## とやま名誉友好使節からの便り

### メアリー・ジャシタ・マクイヴォアさん

平成1～3年度 語学指導助手  
所 属：高岡教育事務所  
出身国：アイルランド

#### ■現在の仕事について

中学校でゲール語、日本語、ドイツ語、社会科、保健体育、演劇などの授業を担当しています。

#### ■また日本に来るとしたら、どこに行ってみたいですか？

東京、京都、奈良、広島、長崎、そして富山に行きたいです。変化を見てみたいですし、私のパートナーに日本文化を紹介したいです。そして富山の旧友との友情を確認したいです。日本は私の人生の中で大変重要な役割を担っています。

#### ■富山に対する感想

富山は魅力的ですが、もう少し海外にPRしたほうがよいと思います。

私の住んでいる所はダブリンやキルケニーに近く、都市と田舎の生活のコンビネーションが抜群です。リサイクルにも最近力を入れています。



### 宋 麗傑さん

平成13年度 海外技術研修員  
受入先：県立中央病院  
出身国：中国



#### ■現在の仕事について

丹東市中医院で看護婦として働いています。

#### ■近況について

私の故郷は丹東市の最東端にあり、北朝鮮と国境を接しています。中国がWTOに加入した後、高速道路がつくられるなど、この街にも様々な変化がありました。多くの韓国人がここで仕事をしています。

#### ■富山に対する感想

富山はきれいな自然、豊富な海の幸、歴史ある文化、優れた医療技術などがあり、世界各国の人が住みやすい所です。もっと多くの外国人が富山で生活・就職できるようになればと思います。

### マレーサ・ポニッチさん

平成13～15年度  
所 属：桜井高校  
出身国：アメリカ

#### ■現在の仕事について

ビジネスマンに英語を教えたり、ヴィンテージの洋服の買付けの仕事をしています。

#### ■近況について

アメリカ人であることはどういう意味を持つのかを再認識させられています。私は外国に訪れたり、他の国の人々と会話を持つ重要性を感じています。私なりのやり方で、全てのアメリカ人は同じでないということを知ってもらいたいです。

#### ■富山に対する感想

山々は素晴らしいです。人々は地域と深い関わりを持っていますが、あまり富山や日本以外に関心がないようです。外国人への偏見がまだあるようにも感じます。道路工事が多く、道路のいくつかは不要のように感じましたし、自然環境を破壊しているように思いました。



右がマレーサさん

## ラグマン

ラグマンは中国西域に起源を発し、現在は中央アジア全域でよく食べられる料理です、手作りの太麺を具だくさんのトマトスープ等いろいろなトッピングで楽しめます。ウズベキスタンでは料理に使う野菜は偶数にするのが縁起が良いとされています。麺は既成のものを入れても、もちろんOK！気軽に作ってみましょう！



### ～作り方～

#### 〈麺〉

1. 材料をこね、かたまりにして1時間寝かす。
2. ベーキングパウダーと塩を混ぜた温水で生地を湿らせる。
3. 完全に混ざるようにしっかりこね、クルミ大のかたまりから、鉛筆大の細長い片を作り、油をかけて皿に置く。
4. 生地片を集め両端を持ちながら大きく円を描くように回し、1mくらいの長さの麺を作る。
5. 塩水でゆで、ゆであがったら冷水につけ、くっつかないようにする。（\*麺はアルデンテの状態に！）

#### 〈トマトソーストッピング〉

1. 肉を油で炒め、細かく切った野菜も加え炒める。
2. 水を加え、スパイスを加えゆっくり弱火で煮る。
3. 出来上がった麺を湯通しし、ソースをかけていただく。



### ～材料～

#### 〈麺〉

小麦粉500g、水1カップ  
卵2個、溶かしバター少量  
牛乳、塩、ベーキングパウダー  
各少量

#### 〈トマトソーストッピング〉

牛肉か羊肉200g  
キャベツ半個、玉ねぎ2個  
ジャガイモ2個、ニンジン2個、  
トマト4個、にんにく2片  
油、塩、コショウ 少々  
コリアンダー、クローブ

## TICからのお知らせ

### これからの行事予定

#### “守ろう地球のたからもの”世界遺産パネル展

1月10日(火)～28日(土)

富山県国際交流センター企画展示コーナー

#### 日本海学講座 “地域の水を生かす取り組み”

2月4日(土) 13:30～15:00 富山県民会館701号室

### ～TICからの助成のご案内～

とやま国際センターでは、民間レベルの国際交流・協力事業の充実を目的とし、国際交流および国際協力事業に対して、一部助成を行っています。助成金額は、対象経費の2分の1以内の額で、20万円（県内での実施事業は原則10万円）を限度としています。

詳しくは当センター、ホームページをご覧ください！

### （財）とやま国際センター賛助会員募集中！

国際交流・協力事業にご支援いただけるようお願いいたします。

年会費（1口）個人会員 3,000円  
団体会員 30,000円

\*賛助会費に対しては税法上の優遇措置があります。

### ライブラリー新着情報！

#### ～国際理解・国際協力に関する本です！～

世界がもし100人の村だったら③食物編  
覚悟 戦場ジャーナリストの夫と生きた日々  
シーサンパンナと貴州の旅  
ラオスは戦場だった  
1秒の世界  
百年の愚行  
もの食う人びと  
なぜ日本人はイラクに行くのか  
アフリカの音  
国際理解に役立つ世界の宗教  
旅行人ノート  
チベット  
メコンの国  
アジア横断  
インド黄金街道



サンバを演奏  
してみよう！

### 国旗、民族衣装貸し出します！

新たにブラジルの楽器も加わりました！  
お申し込みはホームページからも受け付けます！



<http://www.tic-toyama.or.jp/>